

## 『都市対抗 世界子ども将棋団体戦』発足 趣意書

広大な、ユーラシア大陸の東。大陸から、程よく離れた弧状の列島に、我が国は位置します。地理的な独立と、豊かな大陸文化の恩恵を受け、永く、優れた独自の文化を育んで参りました。能や歌舞伎、生け花・絵画、柔道・剣道・相撲など、枚挙にいとまありません。「将棋」も、これらに勝るとも劣らぬ、伝承され、発展し続ける「日本文化」です。

将棋は、チェスなどと同様、インドのチャトランガを起源に持つ百二十種ほどのゲームの一つですが、既に平安時代には、現代とさほど変わらぬ形式をもって登場してきています。爾来、多くの改良が重ねられて、およそ五百年前に将棋は完成されました。将棋は、形式の簡明さや、ゲームとしてのおもしろさ・完成度の高さ・内容の複雑さから、世界で最も進化したものとと言っても過言ではありません。ですが、チャトランガゆかりのほとんどのゲームは、チェスのような立体の駒を使用するのに対し、将棋は、独特な、漢字二文字で書かれた五角形の平面的な駒を用いるために、長く、海外に受け入れられることなく、日本国内に留まって参りました。近年、多くの方々の努力により、将棋の素晴らしさが世界に伝わるにつれ、急速に世界に普及し、今や、五十か国近くの代表選手を集め、国際将棋大会を開催するまでに至っております。世界に点在する「将棋愛好家」の努力、殊に、世界各地に拠点を置く「日本将棋連盟 海外支部」の貢献は大きいと、言わざるおう得ません。また、本会・NPO法人「将棋を世界に広める会」ISPPSも、その一端を担って来たと自負する処です。

「普及」は進み、世界に愛好者が増えているのは確かですが、しかしながら、地域に安定的に愛好家を保ち、愛好者を常に輩出する状態、「定着」となる、まだまだ数える程の国々しか無いのが実情です。

世界に於ける将棋の定着を図るには、現在、世界各地に存在する将棋愛好者に対して、更なるモチベーションを高める工夫を施すことに加えて、愛好者たちに、子ども達へのアプローチを喚起する必要があります。多くの子ども達が将棋の魅力を知り、生活や人生の一部に将棋を取り込む時、更に、その子たちが成長し、多くの人に将棋の素晴らしさを伝えようとする時に至って、初めて、将棋がその地に根付いた、定着した、と言えるのではないのでしょうか。

現在、世界各地に点在する将棋愛好者を糾合し、子どもに目を向けさせ、後継者育成の重要性に気付かせることが、重要だと考えます。子ども達に将棋を伝えることの意味、将棋に対する興味を喚起させる楽しさや、子どもの発達を自らのものとする喜びを知らせる必要があります。これが可能なのは、世界各地に拠点を持つ、「日本将棋連盟 海外支部」以外に無いのではないのでしょうか。

子どもの発達には、子ども同士の具体的な交流に基づいた「仲間作り」が必要不可欠です。既に、実行に移されている所もあるかとは思いますが、各海外支部には、拠点とする各都市内で、地域や学校に根差した取り組みを更に発展させ、より多くのチームによる団体戦の実施を図って欲しいのです。団体戦は、子ども達に将棋への取り組み意欲を高め、棋力を急速に向上させることが実証されています。ISPSでは、子どもの国際的な将棋団体戦を設立することが、海外支部各都市における団体戦実施への、最も効果的な支援となるであろう、との結論に至りました。

当面は、海外支部對抗戦のような形式を取りつつ、一般のグループを巻き込み、子どもの団体による世界大会へと発展させていく所存です。このツールは、

子どもと指導者の双方にとって良きモチベーションとなりましょう。

「子ども」を対象に「将棋」を普及させることは、決して世界の子ども達に「楽しい遊び」や「趣味」を提供することに留まりません。常に対戦相手に敬意を払うことなど、永く日本に育まれて来た文化の神髄を伝えることであり、世界の子ども達に、調和のとれた知的探求心を喚起することです。やがては、地球規模の諸問題に対し、的確な判断を下せる資質を育成することになります。

右に鑑み、日本将棋連盟の協力を得て、ここに「都市対抗 世界子ども将棋団体戦」の発足を画します。世界の将棋愛好者、わけでも、世界各地の「日本将棋連盟 海外支部」の参画を、願って止みません。

令和四年九月吉日

NPO法人「将棋を世界に広める会」/SPS

理事長 眞田 尚裕